

科研費令和3年度の成果

令和4年2月20日
今野利秋

これまでのあらまし（1）

1年目【令和元年度】

<設定課題>

- ①七夕行事の多様性の実態を、各地の行事を訪問し調査・記録する
- ②「ろうそくもらい」について調査する

<実際の成果>

- ①現地調査を行った大阪・京都・石川（能登）・山形の七夕の民俗学的データ（史跡・伝統行事・文献史料など）を整理して報告。
次年度以降訪問する行事をピックアップし、優先順位ランク分け。
今後3年間の訪問予定案を作成。
- ②帰省を活用して、札幌市立図書館、北海道立図書館にて、関連する文献を入手。
その範囲で考えられることなどを、高田さんと話をし、次年度に行事調査などを行ってさらに考察をすることにした。
- ③七夕関連書籍や文献などを図書館やネットなどから入手した。

これまでのあらまし（2）

2年目【令和2年度】

<設定課題>

- ①（継続）七夕行事の多様性の実態を、各地の行事を訪問し調査・記録・分析する
- ②（継続）「ろうそくもらい」について調査・考察する
- ③（継続）文献や博物館、レファレンス活用をして七夕資料を入手する。

<実際の成果>

コロナ禍で七夕関連行事、イベントが軒並み中止。ろうそくもらい、も行わないように学校に通達が出るなどした。調査計画は白紙。テーマ設定などを変更。

- ①「七夕人形」の展示等を中心に訪問・調査
博物館での七夕展示は行われるところがあった。「七夕人形」に関して、甲府、松本、塩尻、仙台の博物館と、行程経路にある宮城県の七夕神社を訪問。
合わせて、先行する七夕人形研究をまとめた。
- ②ろうそくもらい、は初年度文献より、秋田や新潟に類似の歌が存在することから、都立図書館や新潟の民俗研究会などに照会して文献を入手。
- ③文献入手は継続。
- ④現地調査に代わって、七夕のデータベース的なものの試作につなげるために、今野が科研以前から訪問していた者も含めておよそ50事例をカード化。

3年目【令和3年度】（1）（7月19日の民俗班オンライン会議にて）

<設定課題>

①（継続）七夕行事の多様性の実態を、各地の行事を訪問し調査・記録・分析する

- ・7月30日－8月1日 富山県滑川市の「ネブタ流し」
昨年に引き続き、コロナ退散を有志で祈願すること。南限のねぶた行事であることと、コロナ禍ならではのあり様を調査しに行く。合わせて、文献を図書館にて入手する。
- ・8月6日－9日 秋田県能代市の「役七夕ねぶ流し」
ねぶた流しとして行事の一つ。秋田県の各種行事とろうそくもらいの関連性がぼんやり見えてきており、実際の行事の調査を行う。図書館や現地の博物館などに赴く。

②（継続）「ろうそくもらい」について調査・考察する

現地調査はコロナ禍で厳しい。北前船寄港地のある各府県、明治大正に道内入植者数上位になっている各府県の博物館に広く照会メールを投げて、回答が随時返ってきている。

3年目【令和3年度】（2）（7月19日の民俗班オンライン会議にて）

<設定課題>

③ランドスケープ七夕について

言葉は今野の造語。天空の織女・天の川・牽牛を、地上にある神社や自然石、河川などになぞらえている、スカイスケープの写し絵と言える事例がいくつかある。訪問は緊急事態宣言の合間などに行えるが、場所により、歴史的背景や文献上での真偽が論じられるなどもされている。

宗像大社の大島は、コロナ禍の状況次第だが、10月22、23日に、福岡県直方市で隕石の5年に一度の御開帳がある。これと合わせての訪問が行えるならば行いたい。他、米原市、松阪市、天河村など、いくつも未訪問地がある。

④七夕事例情報カードの更新（随時）

昨年作成した七夕事例情報カードは自分が過去に訪問した行事についてだけであった。自治体のHPなどソースが確かなものを出典として、増補改訂を行う。そこからさらに七夕行事の分類を行う。現在、特に進捗無し。

3年目【令和3年度】の成果について（1）

1. 七夕行事の多様性の実態を、各地の行事を訪問し調査・記録・分析する

- ・ 7月30日－8月1日 富山県滑川市の「ネブタ流し」 （科研費）
- ・ 8月6日－9日 秋田県能代市の「役七夕ねぶ流し」 （科研費）
- ・ 7月22日 神奈川県平塚市の「湘南ひらつか七夕まつり」 （実費）
- ・ 他、桐生や足利の織姫神社など （実費）

⇒行程や訪問地、取材写真などをまとめた報告書の作成はまだです。

2. 「ろうそくもらい」について調査・考察する

1) 文献関連

- ・ 過去入手文献の整理段階 ※古屋さんとの情報共有
- ・ 帰省時2022年1月7日 札幌市中央図書館にての市町村史誌の調査
※メインは道内の日食資産調査。いくつかの市町村で七夕記述発掘。

2) 電子リサーチ

- ・ 2021年6、7月 博物館・図書館への照会フォームへの入力や代表アドレスへのメール。
北前船ルートと移住者上位の県にある県立、県内の市町村の施設が主たる対象。

3年目【令和3年度】の成果について（2）

◇照会内容（抄＋加筆）

――

「県内における、北海道のろうそくもらいとの類似行事につきまして」

道内の七夕行事「ろうそくもらい」と各地の七夕行事との関連や伝播ルートなどについて調べております。表題のように、県（市、町、村）内の七夕行事に、北海道のろうそくもらい、と類似した行事がないか、北前船寄港地のある県の施設に照会をしております。青森や秋田のねぶた、ねむり流しとの関連性は聞くのですが、〇〇県（市、町、村）ではどうなのか、広く知りたいと思っております。

県（市、町、村）内で、七夕の行事として、子どもたちが提灯を持って練り歩いた。その際に何か歌を歌っていた、という、北海道のろうそくもらいに似たような行事が行われてる、あるいは、いた、という事例はございますでしょうか？

ありましたら

- ・自治体名
- ・いつ行うのか
- ・かつて行っていたとすれば、例えば昭和何年代くらいまでなのか
- ・行事の形態や内容
- ・歌詞の内容
- ・行事の意味合い（行事そのものの意味合い、ろうそくをもらう意味など）
- ・北海道のろうそくもらいとの関連性（北前船、道内への入植、など）

ということをご教授願えますとありがたいです。

――

3年目【令和3年度】の成果について（3）

◇連絡をした31施設 ※7月分は6日に照会。日付は回答のあった日

- 青森県立郷土館 7/7
- 能代市立能代図書館 7/11
- 秋田県立博物館 7/30
- 秋田市民俗芸能伝承館 6/18
- 本庄郷土資料館 6/26
- 岩手県立博物館 7/6
- 東北歴史博物館（宮城県）7/6
- ×福島県立博物館
- ×山形県立博物館
- 新潟県立歴史博物館 7/6
- ×魚津歴史民俗博物館
- 黒部市歴史民俗資料館 7/7
- 滑川市立博物館 7/7
- 富山市郷土博物館 8/8
- 砺波郷土資料館 7/24
- 高岡市立博物館 7/7
- 射水市新湊博物館 7/7
- ×小矢部市 教育委員会
- 石川県立歴史博物館 7/7
- 福井県立歴史博物館 7/11
- 福井県立若狭歴史博物館 7/11
- 京都府立京都学・暦彩館資料課 7/7
- 兵庫県立歴史博物館 7/6
- 日本玩具博物館（姫路） 7/19
- ×鳥取県立博物館
- 古代出雲歴史博物館 7/6
- 長門市教育委員会 7/8
- ×広島県立歴史博物館
- 広島県立歴史民俗資料館 7/15
- 香川県立ミュージアム（瀬戸内海歴史民俗資料館）7/8
- ×徳島県立博物館

⇒31施設中、何らかの回答があったのは24施設（○のついた施設。回答率77%）。
内容まとめ中。

3年目【令和3年度】の成果について（4）

3. ランドスケープ七夕について

1) リサーチ

- ・ 既知以外の箇所は、主にネット上で関連しそうな場所のリサーチ。現在、9か所ほど

2) 文献入手

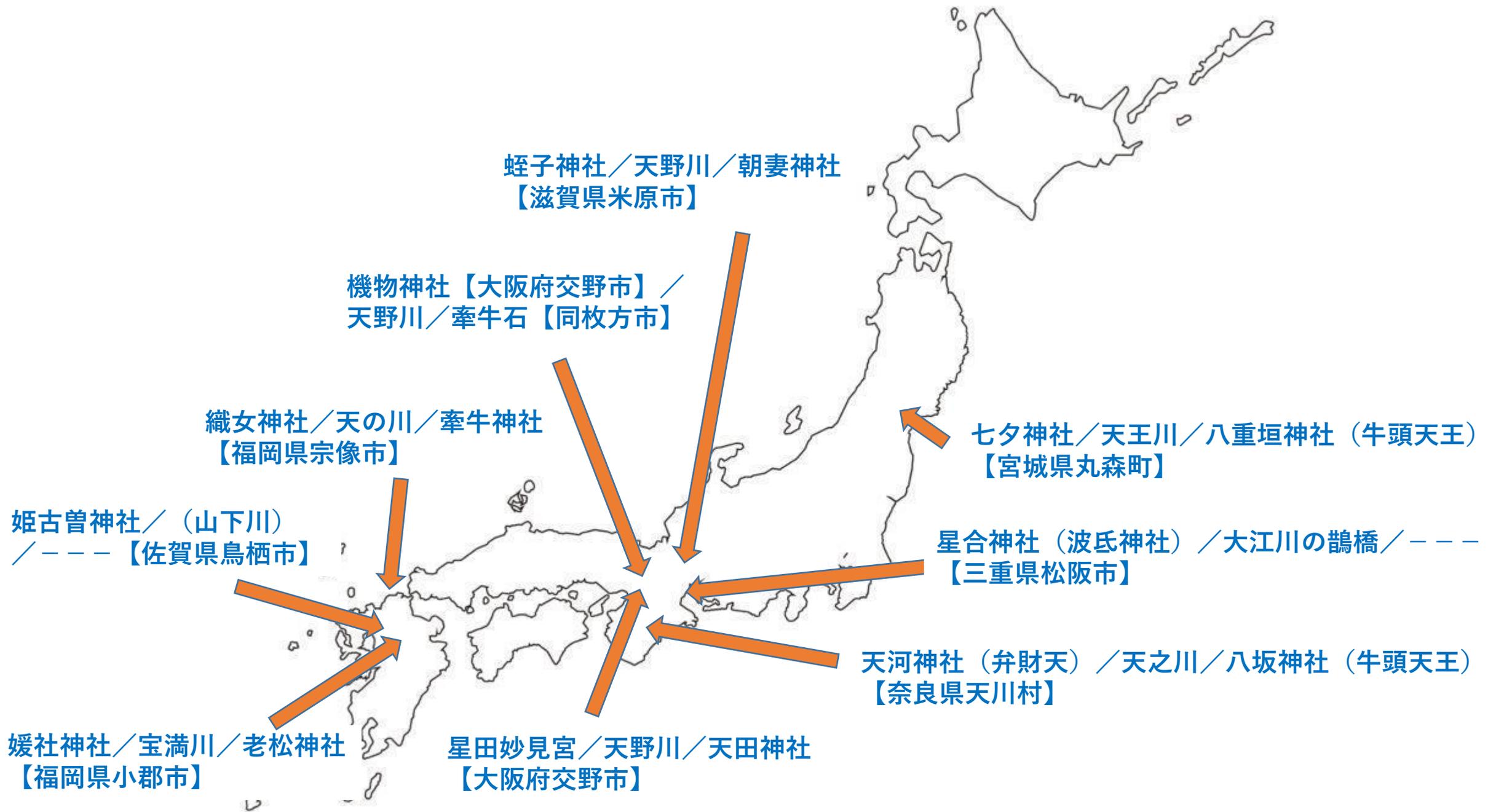
- ・ 蛭子神社／天野川／朝妻神社【滋賀県米原市】に関する偽文書研究書籍入手
『椿井文書—日本最大級の偽文書』／馬部隆弘 中公新書 ※書籍入手
『由緒・偽文書と地域社会—北河内を中心に』／馬部隆弘 勉誠出版 ※コピー入手

3) 実際の訪問

- ・ 12月18日 福岡県宗像市大島の「宗像大社中津宮の織女神社、牽牛神社」
⇒後日、中津宮に照会し、回答あり
- ・ 12月21日 佐賀県鳥栖市姫方町の「姫古曾神社（／山下川）」 ※再訪
福岡県小郡市大崎の「媛社神社／宝満川／老松神社」 ※再訪
⇒本殿復興がされていたり、新しいパンフレットに由来があるなど。情報入手。

4) 照会

- ・ 宮城県丸森町の七夕神社について由来を地元公民館に照会
⇒回答と、郷土史関連の書籍の関連ページをpdfにて送信くださった。
- ・ 宗像神社中津宮で宮司さんに聞き取りと追加でメール照会
⇒回答を得る。



3年目【令和3年度】の成果について（4）

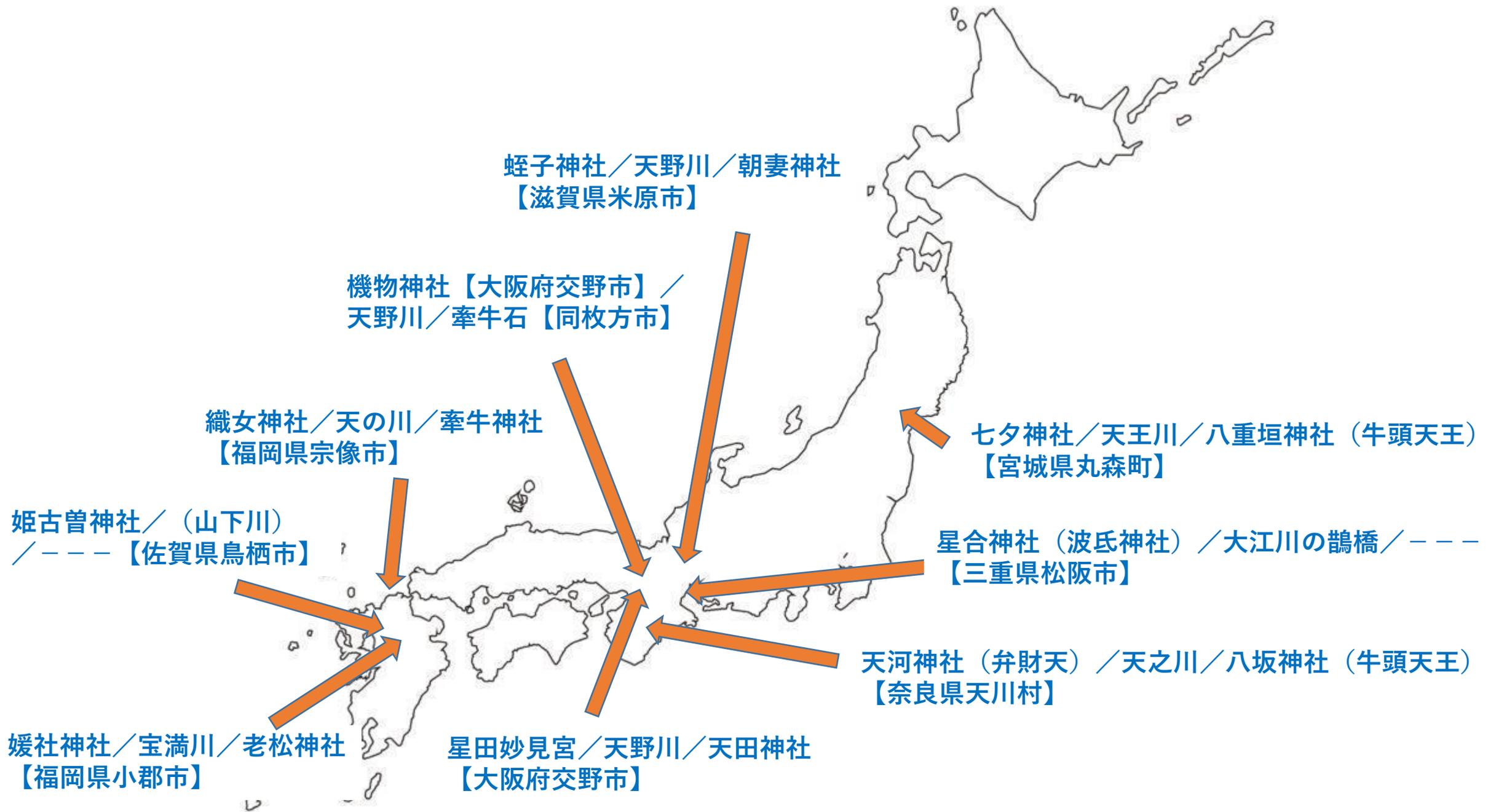
4. 七夕事例情報カードの更新（随時）

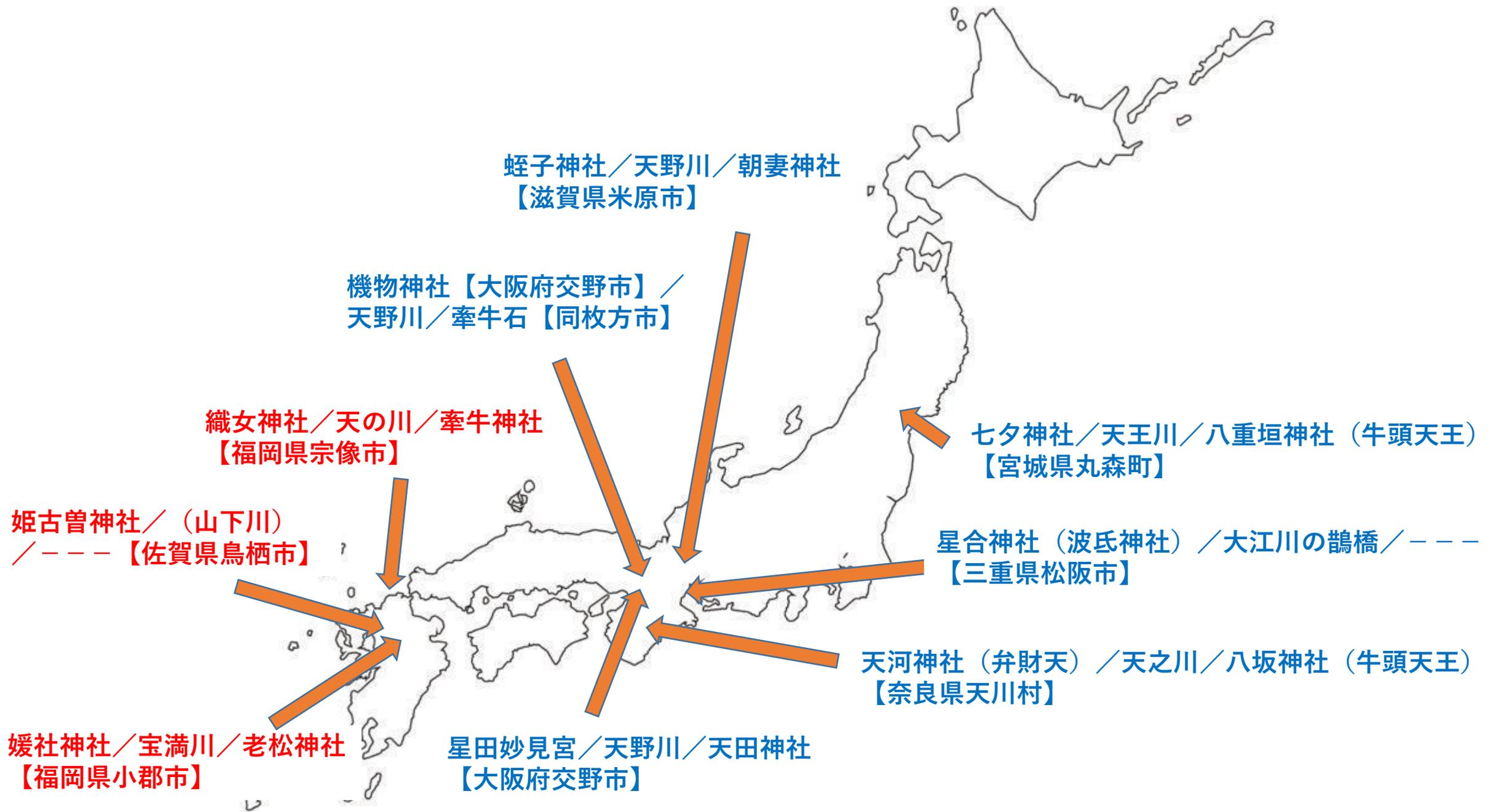
- ・滑川のネブタ流し 2011年7月31日 富山県滑川市 ※2021年7月31日追加調査
⇒今年赴いて分かったことをもとに記載事項の修正を予定
- ・姫古曾神社 2016年10月23日 佐賀県鳥栖市
媛社神社（七夕神社） 2016年10月23日 福岡県小郡市
⇒昨年版での記載漏れでの追加と、今年度の再訪でわかったことも補足を予定
- ・能代ねぶながし（役七夕） 2021年8月6/7日 秋田県能代市
秋田竿燈まつり（ねぶり流し館） 2021年8月7日 秋田県秋田市
⇒今年度新たに訪ねたので新規に記載を予定

5. その他

- ・天文考古学会議にて七夕／お月見アンケートを実施
⇒4名から回答

以上です





**1) 織姫神社／天の川／牽牛神社
【福岡県宗像市大島】**



大島



レイヤ







あ

🛒 食料品

🍴 レストラン

🏠 テイクアウト

🏨 ホテル

🛢️ ガソリン

🏪 薬局

☕ コーヒー

ログイン

御嶽山登山口

541

宗像大社 中津宮

牽牛社

天真名井

中津宮社務所

宗像大社中津宮鳥居

緑地公園公衆トイレ





- 1 前戸神社
- 2 年所神社
- 3 御嶽神社
- 4 祓方神社
- 5 國玉神社
- 6 岡堺神社
- 7 天ノ真名井
- 8 織女神社
- 9 須賀神社
- 10 恵比須神社
- 11 天満宮
- 12 大歳神社
- 13 牽牛神社

中津宮の境内

8.織女神社 (しょくじょじんじゃ)
伊邪那美命

13.牽牛神社 (けんぎゅうじんじゃ)
伊邪那岐命

※宗像大社公式HPより

https://munakata-taisha.or.jp/about_nakatsu.html

境外神社

- | | |
|-------|----------------|
| 正三位神社 | 宗像市大島字伊東1293 |
| 御嶽神社 | 宗像市大島字中津和瀬2987 |
| 巖島神社 | 宗像市大島字真名箸177 |

中津宮





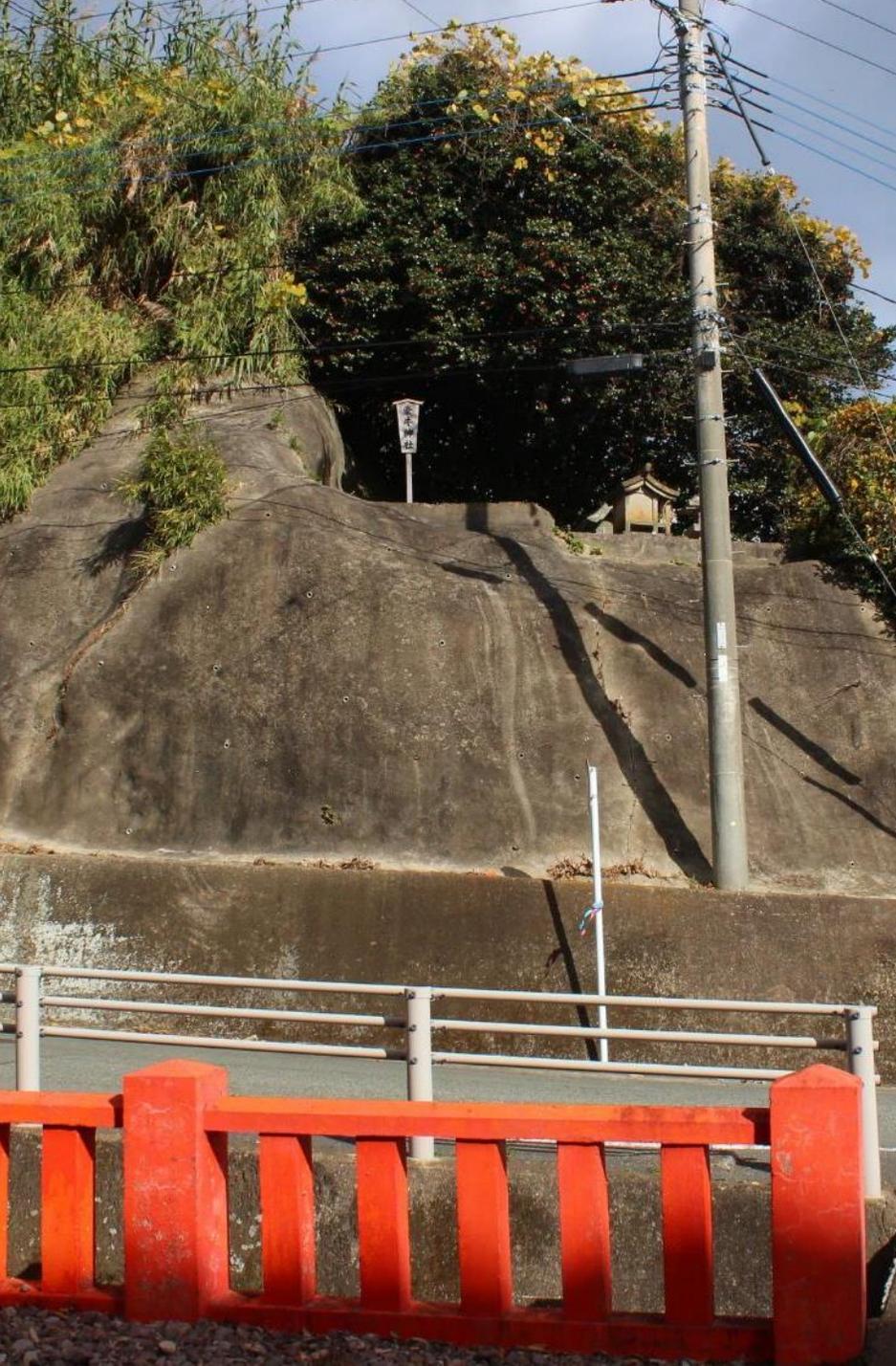
織女神社



天の川



牽牛神社



織女神社

天の川

中津宮

牽牛神社



正平年中行事（1346年）

鎌倉時代後期に成立・確立していた宗像大社本社・末社を書き上げて、それぞれの神社の年中行事を列記したもの。

「7月7日、七夕虫振神事」とあり、境内にある牽牛社、織女社に参籠し、水に映る姿によって男女の縁を定める信仰があると記されている。

こうしたことから、七夕発祥の地になっているという。



大島交流館



遠い遠い昔に、ある貴族きさくの若者が朝廷ちやうていの命令で海を渡り、
中国から数人の機織はたおりの上手な女の人を連れて帰国する途中、
その中のひとりに恋をします。

やがて、役目を果たした若者は都に帰り、
彼女たちは宗像大社むすね邊津宮つみやにあずけられました。

若者は恋人を想ってわびしい日々を送っていたところ、

ある夜、夢の中に宗像の神という天女てんによがあらわれ

「宗像なかつみやの中津宮に行きなさい」と告げます。

若者はお告げに従い、都での仕事をやめて、
中津宮で神に仕える道を選びました。

ある星のきれいな夜のことでした。

いつものように天の川でみそぎをしているとき、
身にかける何杯目かの手桶おけの中をのぞいてみると、

片時も忘れたことのないあの恋人が、

今にも語りかけんばかりに

水に映っているではありませんか。

それから七夕のころになると

手桶の中に恋人の姿が映り、二人は時のたつのも忘れて

だまって見つめ合い幸せなひとときをすごしました。

そしていつしか、二人の姿は

辺津宮と中津宮から見えなくなったそうです。

めでたく結ばれ、宗像の地のどこかに住んだとも、

逆に結ばれぬままに、それぞれ遠いところに

移り住んだとも言われました。



大島図

「筑前国続風土記附録」、貝原益軒、寛政9（1797）年



山城社

中津宮社

虫真船社

辛牛社

天ノ十井

七夕社

大岸

冬千ノ浦

天ノ川

手上新

社

下

知天社

祇園社

河野信濃宅

嶋守宅

嶋守宅

今西



織女神社

天の川

中津宮

牽牛神社



Q どうして筑後国続風土記、と実際の社の配置が違うのか？

宗像大社 中津宮 の回答

牽牛神社、織女神社の位置につきましては確かに「筑後国続風土記」の大島図では両社の位置が逆になっております。

しかし、文中で『石見女式髓脳』では「北に彦星宮、南に七夕宮」、また『古今集栄雅抄』にも「北に彦星を祝い南は織女を崇む」と現在の位置を紹介しております。

当社で保管しております古地図でも配置のずれなどが多々あるようですので、「筑後国続風土記」の大島図においても同様の事が言えるのではと推測されます。

御嶽山登山口

541

宗像大社 中津宮

牽牛社

天真名井

中津宮社務所

宗像大社中津宮鳥居

織女神社

緑地公園公衆トイレ



Q 天の川の北に牽牛社、南に織女社。実際の天の写し絵として考えると、配置だと逆だが？
宗像大社の社に織物の神様が祀られているが、織女社がその可能性は？

宗像大社 中津宮 の回答

正直に申しますと「確証はない」とお答えせざるを得ません。

理由は二社の創建の年代、こういった経緯でお祭されるようになったか？などが不明ということですが。

まず二社の御祭神ですが現在 伊邪那岐命、伊邪那美命をそれぞれの社でお祀りしております。ですので、織物の神様がお祀りされていて、というのは考えにくいかもしれません。

このことから（推測の域を出ませんが）、元来この大島で男女のお神様をお祀りしていたところに七夕の伝説が日本に入ってきて、社名を牽牛・織女（続風土記でいうところの牽牛社・七夕社）と呼びお祀りするようになり、男女の縁を結ぶようなお祀りが行われるようになった。

Q 天の川の北に牽牛社、南に織女社。実際の天の写し絵として考えると、配置だと逆だが？
宗像大社の社に織物の神様が祀られているが、織女社がその可能性は？

宗像大社 中津宮 の回答

そうしますと社名も元々あったご祭神の性別に合わせたと考えられますので写し絵として配したというのも否定されることになります。
また逆に七夕伝説が日本へ入ってきてからお祭されたと考えますと（最初に牽牛・織女をお祀りし後に伊邪那岐命、伊邪那美命をご祭神としてお祀りするようになった）

今野様の仮説はおおよそ当てはまるかと思えます。

しかし、最後の織物の神様が先にという事ですと、はじめに天の川南側に社があったという事になりますので写し絵という事は考えにくくなってしまいます。



立冬と立春の前後に、朝陽が参道、社殿へと伸びていく

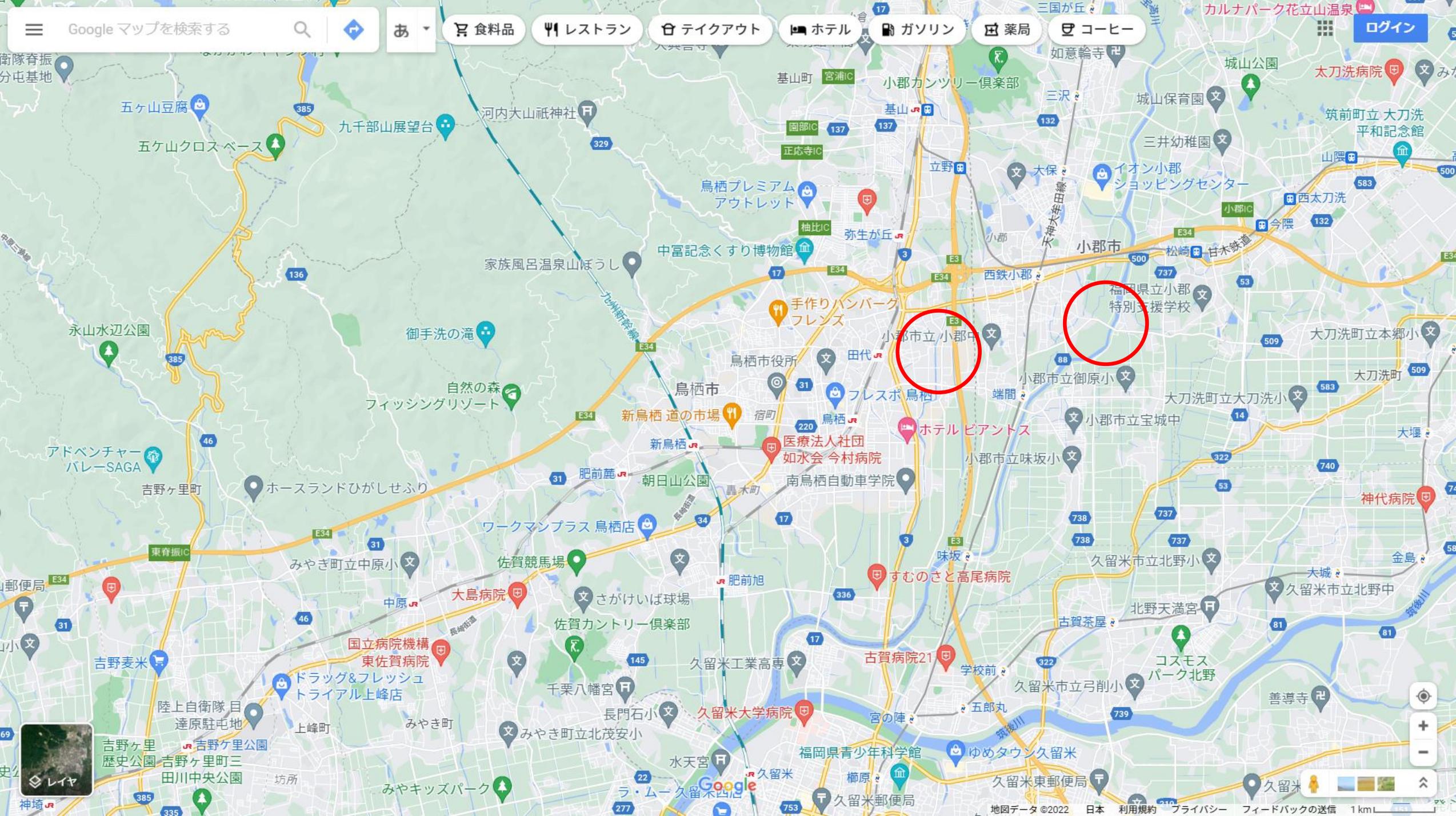
沖津宮遥拝所



沖ノ島



**2) 姫古曾神社 (／山下川)
【佐賀県鳥栖市姫方町】**





姫古曾神社

媛社神社

老松神社 (率牛社)

姫古曾神社

2016年10月23日訪問時。火災で本殿が失われていた。

姫古曾神社御由緒

祭神

神事

市杵島姫命

一 七夕祭 八月七日

八幡大神

二 放生会祭 九月十五日

住吉大神

高良大神

菅原道真

当社の原初祭神は、織女神（たなはた）
姫であつた。このいわれは「肥前国風

土記」姫神郷の段に詳しい。

時移りて弘仁二年（八一）時の村長

某が豊前国宇佐八幡宮の分霊をここ姫方

の地に勧請、先づ徳丸というところに行

宮を建てて祀り、のち現霊地に社殿を建

立して奉還、住吉大神、高良大神を合祀

して八幡宮と稱し、姫方村の氏神とした。

神課十一人で宮座をつとめ、かつては

九月十五日の大祭には重田の飯宮まで御

神幸が行われていたが、いつの頃にか絶

え、祭典のみが執り行われてきた。

社殿等の建立は、寛文十一年（一六七

一）宝殿一字再建、延宝八年（一六八〇）

宝殿一字再建、天明八年（一七八八）鳥

居一基建立、文化七年（一八一〇）社壇

一天満宮、拜殿建立が、伝来の古記録

によつて知ることができるとする。

この八幡宮勧請以後、本来の主神であ

る織女神は疎外されていたが、明治の御

一新に当たり村人は相はかつて近くの

たなはた屋敷におわした織女神を市杵

島姫命の神名をもつて主神の座に復し奉

り、社名を姫古曾神社と改めた。以後

たなはた祭か執り行われるに至つた。

『 姫古曾神社御由緒

祭神

市杵島姫命 八幡大神 住吉大神 高良大神 菅原道真

神事

- 一 七夕祭 八月七日
- 二 放生会祭 九月十五日

当社の原初祭神は、織女神（たなばた姫）であった。このいわれは「肥前国風土記」姫神郷の段に詳しい。

時移りて弘仁2年（811）時の村長某が豊前国宇佐八幡宮の分霊をここ姫方の地に勧請、先づ徳丸というところに行宮を建てて祀り、のち現霊地に社殿を建立して奉還、住吉大神、高良大神を合祀して八幡宮と稱し姫方村の氏神とした。

神課11人で宮座をつとめ、かつては、9月15日の大祭には重田の仮宮まで御神幸が行われていたが、いつの頃にか絶え、祭典のみが執り行われてきた。

社殿等の建立は、寛文11年（1671）宝殿一字再建、延宝8年（1680）宝殿一字再建、天明8年（1788）鳥居一基建立、文化7年（1810）社壇（天満宮）、拝殿建立が、伝来の古記録によって知ることができる。

この八幡宮勧請以後、本来の主神である織女神は疎外されていたが、明治の御一新に当たり村人は相はかって近くの「たなばた屋敷」におわした織女神を市杵島姫命の神名をもって主神の座に復し奉り、社名を姫古曾神社と改めた。以後、たなばた祭が執り行われるに至った。 』





奉賽

『由緒』

祭神

市杵島姫命 八幡大神 住吉大神 高良大神 菅原道真

原初祭神は、織女神（たなばた姫）であり、そのいわれは八世紀の「肥前国風土記」に記されている。

「昔この地に荒ぶる神がおり、ここを通る者の半数は通ることが出来るが半数は殺され、人々は難儀していた。占って神意を伺うと、筑前国宗像郡の珂是古というものに神の社を建てさせ、祭れば荒ぶる心は起こさせぬということであった。そこで探し求めた珂是古が旗をささげて祈ると、旗は御原郡の姫社の社（小郡市）に落ち、再び飛んで山道川（現山下川）のあたりに落ちた。これで神の御場所を突き止めた珂是古は、その夜夢を見て、神が機織りの女神である事を知った。やがて社殿を建て祭ると、神は人を殺さなくなった、という」

また「基肄郡神社記録」によると、弘仁二年（八一）豊前国宇佐八幡宮の分霊をこの地に勧請、住吉大神、高良大神を合祀して八幡宮と稱し姫方村の氏神とした、という。この八幡宮勧請以後、本来の主神である織女神は疎外されていたが、明治に入り村人は相はかって近くの七夕屋敷に祭ってあった織女神を、市杵島姫命の神名をもって主神の座に復し、社名も姫古曾神社と改めた。

**3) 媛社神社／宝満川／老松神社
【福岡県小郡市大崎】**



姫古曾神社



媛社神社



老松神社 (率牛社)



料金所

セブン-イレブン
鳥栖姫方町店

旭食品九州支社

セブン-イレブン
鳥栖GLP店

東(株)鳥栖
センター

デイリーヤマザキ
鳥栖流通団地店

心会病院

小郡市立小郡幼稚園

医療法人格心
会蒲池病院

幡崎町

高尾看護専門学校

ドラッグストア
モリ 物流センター

鳥栖DC/共配センター

小郡市立 小郡中

飯田町

大中臣神社

小郡市立小郡小

小郡市子育て
支援センター

小郡保育園

寺福童

天神大牟田線

端間

井手胃腸科内科医院

西鉄小郡

七夕通り

小板井

マックスバリュ
小郡

セブン-イレブン
小郡七夕通り店

媛社神社(七夕神社)

大崎

たなばた地域運動広場

宝満の市

小郡市 総合保健福祉
センターあすてらす

ミニストップ 小郡二森店

カタルのからあげ
セブン-イレブン
小郡二森店

二森

小郡市立御原小

御原郵便局

ニタ

株式会社 PDC

稲吉

トウモロコシ無人販

加藤電装カーサービス

アンティークショップ

御原校区コミ
センター(稲穂)

ALL保険会社



媛社神社

媛社神社





嘉永七年 寅三月 日

泰再建石 奉

山七夕神社

山七夕神社



パンフレットより

祭神

織女神：万幡秋津師比売命（よろずはたあきつしひめのみこと）

万幡とはたくさんの機で織られた織物で、秋津はトンボの羽の事です。つまり、「トンボの羽のように薄い織物を織る人」という意味で、名の通り機織りにすぐれた技能を持った神様と伝えられています。

愛社神：饒速日尊（にぎはやひのみこと）

かつてこの筑後一帯に土着し、後に豪族となった物部一族の祖先です（織女神はこの尊の母神）。七夕神社の二の鳥居には、磐船神社・棚機神社と併記した額があり、磐船神社は天照大神の御子天忍穗耳尊と万幡秋津師比売命との間にお生まれになった神である饒速日尊を船の神、海上交通の神として信仰しています。

※神社の所在地である大崎は太古の時代、宝満川の河口ないし有明海の奥深いところにつき出した大きい岬であり、船を唯一の交通手段とした古代人にとっては、この岬に海上交通守護、船の神である饒速日尊を祀ったことも考えられます。

パンフレットより

由緒

神社の歴史は古く、和銅6（713）年に各国で作られるように命じられた風土記「肥前国風土記」の中にその由来が出てきます。

山道川の西岸に荒ぶる神がおり、道行く人のうち半分を殺していました。そこで荒ぶる神が祟る理由を占うと、「筑前国宗像郡の人である珂是古に祭祀を行わせよ。そうすれば、荒ぶる心は起こさない」という結果が出ました。珂是古は旗をささげて祈祷し、「神が私の祭祀を望むならば、この幡は風に飛ばされて、その神のそばに落ちよ」と言いました。すると幡が飛んで筑後国御原郡の姫社の社に落下し、再び飛んで山道川のほとりに戻ってきました。また珂是古は、機織りの道具に押さえつけられる夢を見ました。これで神の場所と、神が女神であることを知ったのである事を知った珂是古が祭祀を行い、人々が当地を安全に通れるようになりました。ここから、この地を姫社と読んでいます。

※珂是古は神主として指名を受ける人物。筑後国宗像郡の出身で祭祀に関係を持つ人であれば、宗像大社に縁のある人物であろうと思われます。



織女神 (七夕神社)



七夕伝説

天の川(宝満川)で織姫と牽牛が会おうシーンの再現。
(七夕まつりのイベント)

七夕神社

七夕神社は、正式には媛社神社ひめやしろといい、肥前風土記ひぜんふうどき(七三〇年頃)の中に記述があり、当時すでに大崎のこの地に神社がまつられていたことがわかります。祭神は、神社縁起に姫社神ひめやしろと織姫神おりひめと記されています。

また、今から千年以上前の延喜式えんぎしきという書物には各地から朝廷に差し出す献上品の一覧表が残っています。それによると、小郡を含む筑後の国の献上品は米と織物になっており、この地方は織物がたいへん盛んであったことがうかがえます。また、古来織物に携わってきた人々は織物の神として「棚機津女たなはたつめ」という機織りの女神を信仰していました。この棚機津女の信仰と中国より伝わった織姫・彦星の物語が混然同化して、織物の神をまつる棚機(七夕)神社として親しまれるようになっておられます。

古老の話によれば、「この神社は『七夕さん』として親しまれ、八月六日の早朝から翌七日の朝にかけて、筑前、筑後、肥前一帯から技芸上達のお詣りで大崎に通じる道路は参詣者まんげいしやが列をなした。」と語っています。

また、宝満川を挟んでこの織姫をまつる七夕神社と相對して老松神社おひさまがあり、ここに、大正十二年の圃場整備の際に合祀された牽牛社けんぎゅうがあります。天の川と同じく南北に流れる宝満川とその兩岸にまつられた織姫と牽牛(彦星)は、天上の物語を地上に配した様になっており、そこには昔の人々の信仰とロマンが感じられます。

平成五年十二月

七夕の里振興協会



犬飼神 (老松神社)



七夕まつり

毎年8月6日・7日に行われ、技芸が上達し、良縁が得られるとして、多くの参拝者でにぎわいます。

大崎媛社(ひめこそ)神社

媛社神社は郷社として、近郷の人々の信仰を集めていました。18世紀中ごろに、土地の庄屋が久留米藩に提出した書類には、この神社は「岩船大明神」と書かれています。

嘉永7年(1854年)に建てられた鳥居の額には「磐船(いわふね)神社」「棚機(たなばた)神社」の文字が並んで書かれています。そのころは、磐船神社、棚機神社と呼ばれていたようです。現在は正式名称を媛社(ひめこそ)神社といますが、近郷近在の皆さんからは、親しみを込めて「七夕さん」と呼ばれています。



後筑後國三井郡小村大字崎
媛神社
境内之文圖

此社神所祭后船神ナリ後ニ織女神ヲ合祀スル所以トモ
 一ノ肥前國原土記基建郡今ノ三妻基郡ナリ媛社ニ任ニ此
 國之中有川名山逢川其源出郡北山流而會御井大川今ノ
 姫方郷ノ東ノ流通スル小川ニシテ千歳川ニ入ル昔者此間之西
 有荒神行人多被害半夜半死于時ト求業由北日令筑前
 國宗像郡人可是古祭吾社若合願者不起荒心鬼河是古祭
 神社河是古即掛輪祈禱云誠有欲吾
 祭者此輪願風飛往壁願吾之神近
 即便奉輪願風致遣于時其輪願往
 壁於御原郡姫社文社(今ノ三井郡大
 崎ナリ)夏神ノ在所其夜夢見即掛輪願
 此去野鬼河是古於是亦織女
 神即立社祭之此神養生織婦
 道巧衣食運給開於是
 撰織神奉申也自今已
 未行路人不被殺害今
 以平安即今ノ姫社
 神社文ナリ

大阪大成館刷版部

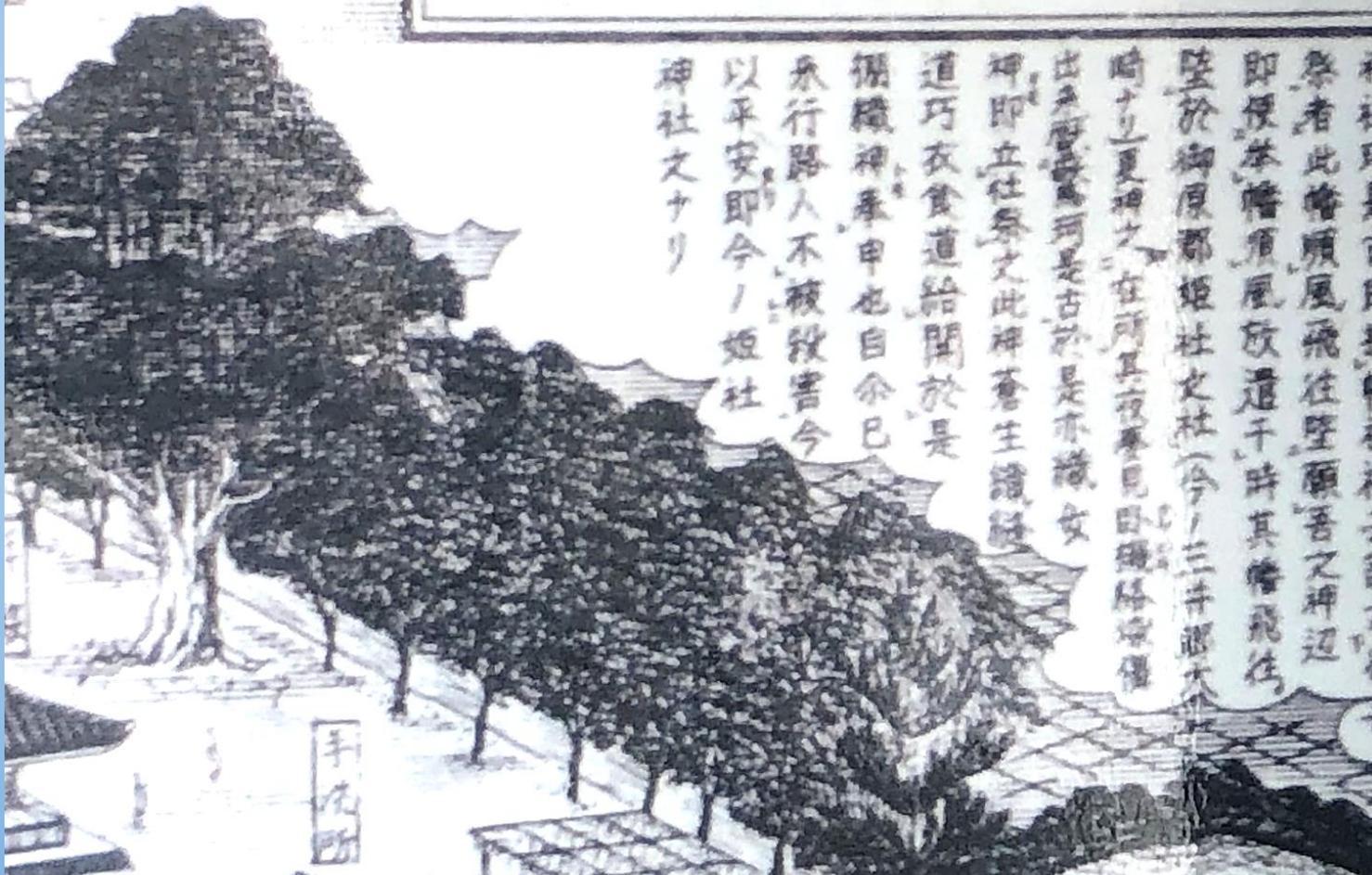
大阪大成館 明治31年「大日本名所図録」福岡縣之部より

筑後國三井郡小郡大村大字崎
郷社

媛神社境内之圖

媛神社所祭若船神社ナリ後ニ織女神ヲ合祀スル所以ノモ
ノハ肥前國風土記基肄郡今ノ三疊基郡ナリ媛社總ノ社ニ此
郷之中有川名山途川其源出郡北山流而會御井大川今ノ
姫方郷ノ真ヲ流過スル小川ニシテ千歲川ニ入ル昔者此間之西
有荒神行路人多被害半凌半死于時卜求榮由北日令筑前
國宗像郡人阿是古祭吾社若合願者不起荒心覓阿是古今祭

神社阿是古即攝轡祈禱云誠有欲吾
祭者此轡願風飛往墜願吾之神辺
即便奉轡願風放遣于時其轡飛往
墜於御原郡姫社之社(今ノ三井郡大
崎ナリ夏神之)在所其夜夢見日織婦像
出衣履爲阿是古於是亦織女
神即立社祭之此神蒼生織婦
道巧衣食道給聞於是
備織神奉申也自余已
承行路人不被殺害今
以平安即今ノ媛社
神社之ナリ





宝満川



老松宮







老松宮（牽牛社）

稲吉の氏神である老松宮は、創建された時代はわかっていませんが、太宰府天満宮の影響を受けて建立されたと考えられ、祭神として菅原神を祀っています。このことは、老松宮から菅原道真の生涯を描いた「稲吉老松神社菅公縁起絵」がみつかったことから見とれます。

また、老松宮には、犬飼神が合祀されています。犬飼は七夕伝承の牽牛（彦星）のこととされています。かつては、老松宮の近くにあった牽牛社に祀られていましたが、水害や周辺の圃場整備のために老松宮に移りました。

牽牛社の、宝満川を挟んだ対岸には、織女神（織女＝織姫）を祀る「七夕神社」があり、牽牛社は、牽牛と織女が天の川に隔てられ、年に一度だけ出会うという七夕伝承にちなんで、西暦 1200 年～ 1300 年頃に創建されたとも伝えられています。



稲吉老松神社菅公縁起絵
第1幅は（左側）菅原道真の生涯を、第2幅（右側）は、道真が死後、天神様として祀られるようになった過程を描いています。



画像提供：小郡市教育委員会

犬飼神

高さ 41cm、横幅 24.5cm の彩色された人物像で、牛とともに立体的に彫られています。



画像提供：小郡市教育委員会

織女神

七夕物語の織姫をモチーフに彫られたと伝えられています。

七夕の物語のように、宝満川を天の川に見立て、織女（七夕神社）と牽牛（牽牛社）を配する昔の人の信仰のロマンが息づく、七夕神社や老松宮とその周辺地域は、平成 25 年 10 月、恋人の聖地プロジェクトを展開する NPO 法人地域活性化支援センターにより、プロポーズにふさわしいロマンティックなスポットとして「恋人の聖地」に選定されました。



小郡にある恋人の聖地スポットを
チェックしよう！

平成29年3月 設置者 一般社団法人小郡市観光協会